

長泉町・さわやかハイキング報告書

| | | | |
|--|---|------|-------|
| 通算山行NO | NO. | 報告者 | 石和加代子 |
| 年 月 日 | 2011年06月12日(日)晴 | 2万5千 | 雨飾山 |
| 山 名 | 頸城・雨飾山(1963m) | | |
| 体力度=3・普通 技術度=3・普通 道標=有り トイレ=休憩舎に有り 展望度=良い 三角点=二等 | | | |
| 変化に富んだ懐の深い自然 | | | |
| コース とタイム | 白馬村民宿「はばうえ」出発3:30—登山口発4:20—ブナ平5:05—荒菅沢—笹平7:20—雨飾山7:55~8:14—登山口着10:49—小谷温泉雨飾荘発12:10—豊科IC14:19—下土狩着17:30 走行距離=片道約300km | | |
| 標 高 差 | 上り 登山口・休憩舎1150m~雨飾山1963m=約813m 下り // | | |
| 参 加 者 | CL・後藤隆徳、村山忠彦、石和加代子、庄野修(杉並区) | | |

響きが素敵な名前の山「あまがざりやま」。数年前の5月に登った頸城(くびき)駒ヶ岳の南側に見えた山だった。今回は上州・武尊山に登る予定だったが、悪天候のため中止となる。北上して新潟と長野の県境にある、頸城山塊の西南端に位置する雨飾山へ登ることになる。まだ暗いうちに宿を出たが、駐車場に着くともう明るくなっていた。車が数台とまっている。休憩舎のトイレは水洗式の和式と洋式があり、ありがたい。雨飾高原キャンプ場が左上にある。右の空に朝焼けを見て、いざ出発。

すぐ少し下ると大海川の河原の湿地帯にでて、木道が敷かれている。という間に、早々かわいい純白な水芭蕉が迎えてくれた。ワオ~! 巨大なものもある。湿地帯がおわると、尾根に取り付きジグザグに登っていく。「3/11 雨飾山まで 3.2 m」この登山道の全長 4400mには 400m おきに標示板が立ててある。ブナの木が多くなる。ずいぶん太い幹のものもある。新緑が美しい。



荒菅沢とフトンビシ岩峰



ブナ平

雪が多くなると足元ばかり見ていた。いつの間にか先行者の足跡がわからなくなり、あれ？とちょっと不安がよぎったら、はるか前方に姿らしきものが見えた。ああよかったと思っていると、とんでもない方向から呼ぶ声がしてきた。道を間違えていたのだ。50mほど下り、声を頼りに辺りを見回すとピンクのテープがむこうの木に付いていた。村山さんがGPSで確認してくれ、無事合流。 <迷ったら、きた道をもどれ！>



黒沢尾根

燕万年青（ツバメオモト）



前方下に大きな雪渓。荒菅沢（あらすげざわ）だ。念のためアイゼンをつけ渡る。雪渓にヤシガラの赤い線が引かれている。見上げると谷間の向こうに格好の良い雨飾山がそびえている。林への入り口のピンクのテープが見つけにくい。樹林帯のきつい登りが続く。黒沢尾根で次第に視界が開けてくる。ロープや木の梯子がついた狭い岩場の登りを抜けると、笹原が広がるゆるやかな道になり、やがて雨飾温泉への分岐点がでてくる。シラネアオイやハクサンイチゲの群れが迎えてくれた。



笹原の白山一華

白根葵



このお花畑のなだらかな下りは安心して、ぼーとなれる。ここからの山の姿はぼってりしている。この先 150m ほどが最後の急登で、雨飾山山頂に着いた。所要時間は約 3 時間半で、まだ時刻的には朝だ。登山者にはだれにも会わなかった。

展望が良い。北東に焼山、火打山、妙高山、南に高妻山、戸隠連峰が見える。下の笹の草原をなにやら動いている、登山者だ。むこうにはもうひとつのピークがあり、石祠がならんでいる。そのうち、登山者が来たので、私たちは下山する。



雨飾山頂上



黒沢尾根ではなんと富士からの一行と出会う。撮影にきた人や山菜採りのおじさんやら、きのうと違ってずいぶんたくさんの人たちとすれちがった。登山者の装備はハイキング的であった。

帰り道はもうグチャグチャにぬかるんでいた。ありがたいことに休憩舎には蛇口にホースとたわしが用意されていて、靴の泥をぬぐうことができた。全体的に親切で、お花にもたくさん出会え、変化を楽しめる山だった。標高が高くない割には、険しさもあり、変化に富んで格好よい山だった。山頂前と下山の到着前に急登があったのがダメ押し的でちょっときつくはあったが。

出会った花

ミズバショウ（水芭蕉）、エンレイソウ（延齡草）、ニリンソウ（二輪草）、イワカガミ（岩鏡）、イワナシ（岩梨）、シラネアオイ（白根葵）、ツバメオモト（燕万年青）、マイヅルソウ（舞鶴草）、サンカヨウ（山荷葉）、カタクリ（片栗）、ニシキゴロモ（錦衣）、オオバキスミレ（大葉黄堇）、エチゴキジムシロ（越後雉筈）、ハクサンイチゲ（白山一華）、ミネザクラ（峰桜）、コブシ（辛夷）、オオカメノキの花（大亀の木）、アケボノツツジ（曙躑躅）

前日の6月11日（土）のこと

現地の天気 小雨～曇り～晴

下土狩 4 : 3 0 - 扇沢 8 : 2 0 - 大沢小屋 9 : 3 4 - 針ノ木峠より手前 2450m 地点で
引き返す 1 2 : 2 0 - 扇沢 1 5 : 0 0 - 白馬・民宿「はぼうえ」 1 7 : 5 0

扇沢の駐車場で庄野さんと合流し、針ノ木岳をめざす。霧雨が降っている。大沢小屋の上から雪溪に入る。さすがに雪溪は冷気が伝わってくる。映画「点の記 剣岳」の映像のような大きく長い雪溪がずっと続いている。すごい！初めての体験だ。

傾斜はきつい。ガスって先が見えなくなったり、足をズボッと割れ目に落として抜くのに苦労したり。大きな岩が落ちてきたあとを見てゾツしたり。デプリの跡が生々しい。いよいよ針ノ木峠が近づいてきたら、傾斜も雪質もレベルが増した。

庄野さんを追い、私もここで引き返すことにする。峠から山頂までまだ1時間はかかるということで時間切れ、危なっかしい私のこともあり（足をひっばってしまった…）、みんなが引き返すことになった。

大沢小屋からは花を見たり、ふきをとったり楽しく下る。ふきのとうまでまだあった。雪溪でスキーヤーに2人程出会っただけだったが、扇沢に着くとさすがに大勢の観光客がいた。いつか、もっと早い時刻から登りはじめて、また挑戦しようということになる。大町温泉「薬師の湯」で汗を流し、温泉のパンフで探した宿に向かった。

出会った花 キヌガサソウ（衣笠草）、ツクバネソウ（衝羽根草）、コバイケイソウ（小梅蕙草）、 ほか



針ノ木雪溪

